



日本近代化の証人「近代化遺産」

江戸時代の鎖国政策で、近代化した世界に遅れた日本が、江戸時代末期から政治、経済、文化、科学技術などの分野で押し進めた近代化。その時代の歴史的遺産が「近代化遺産」です。近代化の主力エネルギー・石炭の産地だった大牟田には、その採掘から輸送、関連工場まで一連の流れがわかる遺産が残っています。

◆:いつでも自由に見学ができます。 ◆:内部を見学するには許可が必要です。 ◆:見学はむずかしいです。



C 三池炭鉱七浦坑跡 ◆

1883(M16)年開坑。第1・第2立坑と第3斜坑があり大正～昭和初期に閉坑。官営期に近代的な活躍を始めた主力坑。【大牟田駅から車で10分】



D 山の神社跡 ◆

祭神は愛媛県大山祇大神。1905(M38)年建立の鉱山の神。大鳥居は一般坑夫の寄付金等で1916(T5)年建立。【大牟田駅から車で15分】



E (株)三井化学大牟田工場講堂 旧労務館 ◆

1932(S7)年竣工。初期の鉄筋コンクリート製の事務所建築。部分的なアールや壁面の一見タイル風のレンガがお洒落だ。【大牟田駅から車で5分】



F (株)三井化学大牟田工場 J工場 ◆

ドイツの染料工場を参考に1938(S13)年竣工。鉄筋コンクリート7階建。当時は東洋一の高さを誇る町のシンボルだった。【大牟田駅から車で5分】



G 県立三池工業高等学校外堀 旧三池集治監外堀 ◆

1883(M16)年開庁の石炭採掘を主な目的とした囚人収監施設。高さ5～6m。現在長600mのレンガ造。県指定有形文化財。1931(S6)年閉庁。【大牟田駅から車で7分】



H 泉橋 ◆

1919(T5)年竣工の大牟田市内初のコンクリート橋(二連続剛節橋)。三池炭鉱区局への通路として利用された。【大牟田駅から車で5分】

触れてください、
大牟田にたたずむ
歴史の息吹、近代日本の夢。

進化を目指す人と文化、技術に彩られた日本の明治、大正、そして昭和。炭鉱の街・大牟田はその中心にありました。時代の情熱を伝える建造物は、今も近代日本の夢を語り続けています。



B (宮浦石炭記念公園) 三池炭鉱宮浦坑跡 ◆

1887(M20)年開坑の三池炭鉱の主力坑の一つ。現存する煙突は1888年建造、高さ31.2m。登録文化財。1968(S43)年閉坑。【大牟田駅から車で5分】



I 三池炭鉱万田坑跡 ◆

1902(M35)年開坑の大正・昭和初期の主力坑。当時わが国最大規模の立坑。国の重要文化財・史跡。1951(S26)年閉坑。【大牟田駅から車で20分】



J 三池炭鉱専用鉄道 電気機関車 ◆

1909(M42)年、アメリカから輸入の第1号が三池炭鉱専用鉄道を走った。その後ドイツから輸入した凸形とそのコピーである国産が主流に最盛時20台以上が稼働。



N 三池炭鉱三川坑跡 ◆

1940(S15)年開坑。2本の斜坑と東洋一の選炭場を持つ戦後の最主力坑。1997(H9)年閉坑。炭鉱史上貴重な史跡。【大牟田駅から車で9分】



O 大牟田商工会議所 ◆

1936(S11)年、元大牟田駅跡地に竣工。鉄筋コンクリート造陸屋根2階建は当時の先端で商工業近代化の拠点となった。【大牟田駅から徒歩5分】



P 大牟田市役所本館 ◆

1936(S11)年竣工。当時の典型的な官庁建築。鉄筋コンクリート4階建。アーチや装飾が建物の表情を和らげている。【大牟田駅から徒歩いく】



K 旧三井港倶楽部 ◆

1908(M41)年竣工。船員の休憩所や政財界の社交場として活躍した木造2階建瓦葺木骨様式の洋館。現在はレストラン。【大牟田駅から車で8分】

L 旧長崎税関三池支署 ◆

1908(M41)年、長崎税関三池支署として開庁。木造瓦葺き平家建、屋根は見入母屋風。内・外装とも明治の面影が残る。【大牟田駅から車で10分】



M (株)サンデン本社屋 旧三川電鉄変電所 ◆

1909(M42)年に当時の三井鉱山が取得した切妻平家煉瓦造の優雅な建物。三池炭鉱専用鉄道の変電所として活躍。国の登録文化財。【大牟田駅から車で10分】



Q クレーン船「大金剛丸」 ◆

三池港に停泊して活躍するイギリス製浮クレーン。石炭を燃料に最大15トン吊り上げている。1905(M38)年以前の製造。【大牟田駅から車で10分】



R 旧三池炭鉱専用鉄道 ◆

1891(M24)年開通。石炭や炭鉱資材、関連工場の製品等を輸送した貨物専用鉄道。一時は旅客営業も。現在JR線につながる約1.5kmが残る。【大牟田駅から車で5分】



S 三池港閘門 ◆

遠浅で干満差が5.5mと大きい有明海に大型船が入れるよう築港。2枚のイギリス製の鋼鉄製門扉がドッグ内の水位を保つ。【大牟田駅から車で10分】